

令和6・7年度 研究主題

身近な自然に興味や関心をもち、  
関わって遊ぶ中で、好奇心や探究心を育む

第4回 研究部会 令和7年10月15日（水） 会場：三先幼稚園

内容 ・がんばる先生視察出張報告

第72回 全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会 東京大会

- ・研究討議会（研究成果発表会のパワーポイントを見る・各園で討議）
- ・指導主事からの指導・助言

## 第72回 全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会 東京大会

### 大会主題

「わくわくぐんぐん 未来へ進む子どもたち 一国公立幼稚園・こども園の存在意義を語ろう」

#### ☆1日目 記念講演 狂言師 野村萬斎氏

- ・狂言の世界では、弟子と師匠の関係性の中で、認めたり、狂言の必要な型を分かりやすく知らせたりする様子が、幼児教育の教師と子どもの関係性と共通する点がいくつかあると学んだ。
- ・師匠が手本になりながら、狂言という伝統文化を弟子につないでいるということが分かり、伝統文化をつないでいくという部分で、幼児教育の大切さや、園の特色、大阪市の特色などをこれから先へつないでいくことの大切さを学んだ。

#### ☆研究発表 長野県松本市立松本幼稚園、滋賀県立野洲市立野洲幼稚園、高知県四万十町立認定こども園たのの

- ・事例の中で“わくわく”“ときどき”“もっと…”が繰り返され、らせん状に高まっていく中で子どもが、主体的に遊べるように環境を見直したり、最適な働きかけを見極めたりすることが重要であると学んだ。
- ・興味や関心をもって遊ぶ中で、子どもの興味や関心に合った環境を用意し、教師のタイミングのよい働きかけをしたことで、「やってみよう」「どうなるのかな」などと、好奇心や探究心をもった実践事例を聞き、1ブロックの研究にもつながる事例があり、学びになった。

#### ☆2日目 分科会 群馬県東吾妻町立いわしまこども園「地域とともにある園づくり」

東京都江東区立つばめ幼稚園「みんなが つながる ようちえん」の発表

- ・子どもを中心に地域や保護者、行政機関など、縦・横・斜めの支援関係を築いていくことで、豊かな教育の推進や子どもの育ち、教師の資質向上につながると分かった。
- ・地域の様々な自然と関わる中で、多様な考えや気付きにふれ、人とのつながりができ、「自然」という誰にとっても身近なものを地域の方々と共有することで、子どもたちもより自然への興味や関心を広げていくと学んだ。

#### ☆指導助言 文部科学省幼児教育課幼児教育調査官 平手咲子氏

- ・地域との交流活動や連携、協力の関係を持続可能にしていくことで、豊かな教育の推進につながっていくことを教わった。
- ・園の存在が地域資源となるように努めていくとともに、多様な体験が関連しながら経験化され、学びとなるように保育をしていかなければならないと実感した。

## **研究討議会** (1) 研究成果発表会のパワーポイントを見る

### (2) 各園で話し合い、報告(各園の意見より抜粋)

- ・色水や泡、振り返りの動画を流す際に編集した動画が、教師と子どもの会話が続いているのに途中で終わってしまっているように感じた。
- ・実践記録のまとめが自然ではなく、最終的に「速さ」の方でまとまってしまっているため、自然物を使った遊びであることを再度知らせていくとよいのではないか。
- ・講演会の話が最後になっており、研究のまとめのようになっているため、実施した時期に関係なく前の方に載せてもいいのではないか。
- ・読み原稿とスライドの文字が違うことがあるため揃える。
- ・教師が主語なのか、子どもの言葉なのか分かりにくい箇所があった。
- ・自然物や環境の写真があるとより分かりやすい。
- ・文言や吹き出しなどの位置、大きさ、余白などを統一したほうがよい。



## **指導・助言**

**講師** 大阪市総合教育センター 教育振興担当 基本研修グループ 指導主事

- ・子どもたちが、沢山の自然と触れている写真があり、視覚的に分かりやすく、環境について学びになる。また、図や色合いが柔らかく、きちんと整理されており、分かりやすいと感じた。
- ・メタセコイヤやモミジバフウの写真があると見ている人もイメージがもちやすくなる。
- ・実践記録の事例のように、実によって速さが変わるということに幼児自身が気づき、また新たな疑問を感じたり、それを探究したりしていくことは、小学校の理科につながる。
- ・研究保育の文末は「〇〇の姿が見られました」なので、統一した方がよい。
- ・五感という言葉は、配慮して使うようにする。言い換えるならば、感覚諸器官などがある。
- ・子どもたちの写真が、自然に触れて遊ぶ姿を見ることができてよいと思った。そこに、2年間の思いやキーワードを載せるのもいいのではないか。
- ・子どもたちは、アウトプットをしていく楽しさを感じていく中で、「〇〇のことは〇〇くんに聞いたら分かる」「〇〇名人」などとなり、教師や友達に認められることで、自己肯定感が高まっていく。
- ・2年間の研究の中で失敗や苦労も沢山あったと思うが、教師自身の学びも、らせんをえがきながら高め、深めていったと思う。これまでの日々の丁寧な見とりを積み重ねてきたからこそ、課題が見えてきたのではないか。そういう課題を見つけるということも探究の一つになり、「次はこうしよう」という改善にもつながっていく。

## **学んだこと**

- ・幼児なりの問いや疑問を受け止め、自由に試せる環境を整え、日々の丁寧な見とりを通して、タイミングを逃さず言葉かけをすることが大切であり、探究心の育ちにつながることを再認識した。
- ・小さな疑問が生まれ、関心をもつ、試してみる、また疑問が生まれるという連続性のある遊びを継続していくことが、探究する楽しさにつながることを学んだ。